

玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会アンケート集計

- 第2回及び第3回建設準備委員会（講話、先進校視察）を通して、小中一貫校の教育面や学校の施設面などについて感じた点 ※いただいた回答をほぼ原文まま掲載しております。

○教育面

- ・先生方が小学校と中学校の子ども達両方を受け持って教育するのは良いことだと思う。(それぞれ得手、不得手があるでしょうから…)
- ・専門的な知識や技能あるいは指導力を持った先生方が小学生を教えられるのは良いと思う。子ども達からしても色々な先生方と交流できるのは良いと思われる。小学校では一日の大半を担当の先生と過ごす。全人格的な触れ合いや関わりが良い点であり、是とすべきことだと思う。教科の特性を指導し/教えられ、知識を身につけ/人格的にも成長する(互いに)。理想はそんなところだろうが、なかなか困難も多い。
- ・小中一貫校になるまでの過程や規模に違いがあるので、取り入れることは少々難しいと思う。小学校高学年において、技能教科で専科的な指導、その他の教科においては可能な範囲でTTで指導することは取り入れたい。
- ・小中一貫校化のメリットの一つが、中学教員の小学生への乗り入れ授業であり、成績において、かなり効果があると小野先生がおっしゃっていたので、積極的に取り入れていただきたい。また、国田小中学校は各学年1学級なので、単元に対する先生のやり繰りがしやすいが、2学級の場合は、かなり厳しい状況になると、玉里小学校の先生が言っていた。授業面等については、専門的なことは分からないので、教職員の方々に十分検討をしていただきたい。
- ・9年間を見通すことにより、多様な教育が工夫でき、学力向上や生活の充実が期待できると思う。例えば、小中学校の従来の形である6・3から4・4・1と分けることにより、小中の連携を図ったり、それぞれの学年部の活動を充実させることが可能。また教科等においても、小学校5、6年からの教科担任制や部活動の参加が可能になる。そのため、準備や研究を進める必要があると思う。
- ・小中学校両方の先生が子ども達に関わることにより、きめ細やかな指導ができているということが分かり、これが小中一貫校の大きなメリットであることが理解できる。しかし、小・中と分かれているときより負担が大きくなる職員も出てくるのではないかという気もする。それぞれの職員の役割分担や校務分掌など、計画的・多角的に考える必要があるのではないかと思う。
- ・教科書での勉強以外に何を教えるか、何が体験できるかが重要と思う。一般の勉強だけなら「小中一貫」でなくてもできる。例えば、国田小中の掲示板に下記のような「笑顔」の言葉がたくさんあり、子ども達も笑顔で迎えてくれた。校長先生も終始笑顔であった。

「笑顔の輪，仲間とともに繋いでいこう。さらに笑顔は笑顔をつくる」

「みんなで描こう心の輪，君の笑顔はみんなの笑顔」

たぶん「国田小中」の一つの教育コンセプトと思える。全体の中で（当初私は「小中一貫なんて意味（メリット）あるのか？」と疑問を持っていたが）「国田小中」の説明・現場を見て、生徒の年齢差が大きい分、やりたいこと、やれる事を選択肢が増えると感じた。

玉里小中一貫校として何を求めていくか、何を変えていくか、子ども達は何を期待するのかをこれからシッカリ纏める必要がある。そして、それを実行する。大きなコンセプトは例えば「子どもの自主性」そのために…。子どもも含めいろんな立場の人のアイデアを結集したい。

- ・小中一貫となると小学1年生と中学3年生では体格だけではなく、色々な違いがあるので、実際どうなるか不安がある。
- ・視察校についての実績（まだ卒業後の経過等について）が不透明であるので、全国的に比べられるものがあると良いと思う。

○施設面

- ・視聴覚的なホールは取り入れたい。
- ・オープンスペース教室は絶対止めた方が良い。
- ・教室は広めにし、廊下等も広めに。
- ・国田小中のような講堂もあると良い。
- ・職員室を広く。
- ・図書室とコンピュータ室を1フロアにしない方が良い。
- ・校舎全体としては、死角が多いように感じた。
- ・建物内に職員が目が届かない死角が増えるのは望ましくないと考える。
- ・玄関は前が良い。
- ・駐車場もスペースに余裕がほしい。
- ・小学生と中学生の昇降口が分かれているのは良いと思う。

- ・玉里小学校の隣の敷地を買い上げ、新しい土地に小・中学校を建設する。
- ・現玉里小の敷地と隣接の畑を同一敷地として利用しても、国田小中学校と比較してもだいぶ見劣りがする。現玉里中の敷地を利用するにしても、不便ではないか。
- ・小中で共用できる特別教室（図工・美術室、理科室、家庭科室）により、経費を節約できる面もあるが、小学生と中学生の体格の違い等の配慮も必要になると思う。将来の教育の変化に対応できるよう、多目的スペースや共用部分の工夫など、フレキシブルで変化に対応できると良いと思う。
- ・小学5，6年生と中学1，2年生との交流を良しとして行う場合、班分けをしなければならないと思われる。同時展開をしていく時には、施設（体育館、家庭科室、美術室、etc...）もかなり必要になってくる。また、班分けをして、週時程の中でうまく展開できるのか、あるいは教員の数は足りるのか（そう増員はできないのではないか）。
- ・校舎の中を分割し、小学生ブロック、中学生ブロック及び共用ブロックとしてあるのは、国田小中学校の人数ならではの造り。玉里地区に置き換えた場合、各学年複数のクラス編制となり、単純には比較できない。
- ・将来的な子どもの人数の増減に対して、どのように校舎をつくるのかを考えて施設を作って欲しい。（個人的な考えとして、玉里北小学区で子どもの数が増えるのでは？）
- ・教育のコンセプトをシッカリ決め、それを実現するにはどんな施設が望ましいか決めること。どういう教育をするのか、何を体験させるのか。子ども達は何を期待するのか？先生の気持ち、親の気持ち、子どもの気持ち、そして一般者の気持ちを纏める。コンセプトが決まれば、その実現のためには、校舎は？（国田小中では前面木張り；木の温もり、木の優しさ）、施設は？、レイアウトは？が自ずと決まってくると思う。教育面を含め個人的には今だ何をやるべきかの案はありません。
- ・施設面においては、同じ校舎に小中学校が入るのが理想であり、国田小中学校も素晴らしいレイアウトであると思う。玉里地区小中学校もハッキリとしたコンセプトを持って、素案を作成していくことが大事だと思うが、委員は建築に関しては素人である。理想論を唱えることが想定されるので、既存条件や制約条件、さらには予算的にも限度がある中で設計をしていかなければならないことをしっかり説明したうえで、ベースになる案を提示し、取り入れるべきところは取り入れ、意志の疎通を図り、後に混乱が生じないように、委員に納得してもらえる手順を踏んで進めていきたい。
- ・充実していたように見えたが、玉里と水戸での予算は同じなのかな？これくらいまでは新設及び増設ができるといった具体的な数字があると予算に応じた対応策が出てくると思う。